HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	編集後記
Author(s)	山本, 美穂子
Citation	北海道大学大学文書館年報, 8, [127] - [127]
Issue Date	2013-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/52345
Type	other
File Information	ARHUA8_007.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

〔編集後記〕

◇洪廣冀さん（台湾出身・ハーバード大学歴史学研究科博士後期課程）が、4月20日より11月8日までの約半年間、ほぼ毎日、大学文書館に通われた。学位論文執筆のため、宮部金吾旧蔵書簡（英文・和文）と植物学教室旧蔵論文別刷コレクションの悉皆調査が目的であった。洪廣冀さんが来館した日の閉館時刻後は、川上瀧彌（札幌農学校第18期生／台湾総督府技師）書簡を音読する3人（洪さん・井上・山本）の声が館内に響いた。川上瀧彌が恩師宮部金吾教授に宛てた書簡は、1890～1910年代にかけて約100通にものぼる。技術補助員の大学院生（国文学専攻）たちも加わり、解読困難なくずし字に挑むのは、実に楽しい時間であった。

◇2012年は、台湾からの訪問・照会が相次いだ年であった。台湾の彰化高級中学修学旅行団のほか、台湾大学台湾文学研究所や芸術史研究所からの照会・閲覧利用もあった。中興大学の王孟亮教授からは、戦時中に発行された『シルバ会々員名簿　昭和十九年一月現在』を寄贈いただいた。王孟亮教授は同名簿を台湾の古書店で購入された。同名簿は当館・附属図書館でも所蔵しておらず、初めてみるものであった。王孟亮教授によると、中興大学図書館には、北海道帝国大学農学部附属台湾演習林の「森林調査簿」も残っているという。台中市に所在する中興大学は、台湾総督府農林専門学校・台北帝国大学附属農林専門部・台湾総督府台中高等農林学校・台湾総督府台中農林専門学校を前身校としており、戦前期には北大卒業生が教官として数多くいた。「北海道大学史にとって、植民地とのかかわりはいずれの時期においても深甚なテーマである」（年報第6号編集後記／前館長逸見勝亮記）ことを、改めて感じた。

◇2012年も学内外の皆様のおかげで個人資料を数多く受贈した。関西エルム会日下大器氏（農学部1962年卒業）のご尽力により、新制大学期の学生資料が増えてきた。10月4日には、ホームカミング・デーのために来札した、ご子息の日下出氏（農学部1996年卒業）が当館に来られたことも嬉しい限りであった。

◇東晃旧邸で保管されていた東新（元予科教授）・東晃（元工学部教授）父子資料が、山崎敏晴氏（中谷宇吉郎没後50年記念事業実行委員会事務局長）のもとで整理作業が進められている。東新は夏目漱石の門下、東晃は中谷宇吉郎の門下であった。「雪華文庫」（中谷宇吉郎関係資料／山崎敏晴氏命名）、「東家旧蔵資料」（東新・東晃関係資料）として、2013年以降も、当館で受け入れていく予定である。　（山本）

北海道大学大学文書館年報　第8号

2013年3月31日発行

編集・発行　北海道大学大学文書館

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

電話　011-706-2395（FAX兼）

印　　刷　岩橋印刷株式会社

© 2013 Hokkaido University Archives

Printed in Japan.